

# 彙報

## 人口問題研究所參與發令

人口問題研究所官制第三條による參與は、昭和十五年二月五日付を以て左の通り發令せられた。

内閣統計局長	川島孝彦
企畫院部長	中島清二
興亜院部長	鈴木貞一
内務省計畫局長	松村光磨
陸軍中將	中村明人
海軍少將	伊藤整一
文部省普通學務局長	中野善敦
農林省臨時農村對策部長	重政誠之
拓務省拓務局長	安井誠一郎
厚生省豫防局長	高野六郎
厚生省衛生局長	林信夫
厚生省勞働局長	藤原孝夫
厚生省體力局長	佐々木芳遠
厚生省社會局長	新居善太郎
厚生省職業部長	内藤寛一
厚生書記官	武島一義
公衆衛生院教授	林春雄
從二位勳一等	關屋貞三郎
從三位勳二等	上田貞次郎
從四位勳三等	那須皓

正五位勳四等 古屋芳雄  
從三位勳二等 下村宏  
從四位勳四等 永井亨  
井上雅二  
暉峻義等

人口問題研究所參與被仰付  
昭和十五年二月五日

### 參考

#### 人口問題研究所官制拔萃

第三條 人口問題研究所ニ參與ヲ置キ所務ニ參與セシム

參與ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

學識經驗アル者ノ中ヨリ命ゼラレタル參與ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

#### 人口問題研究所參與會議

三月二十八日午前九時三十分より厚生省第二會議室に於て人口問題研究所參與會議を開催し左記の通り參與十九名、當研究所より岡田所長、北岡、中川兩部長以下各研究官參集し初顔合せを行った。先づ岡田所長より別項の挨拶を兼ねて人口問題研究所設置の趣旨、目的を述べ、北岡企畫部長より事業概況及調査研究計畫を詳細に説明し參與の意見を徴し之に對して那須參與、關屋參與、永井參與、松村參與等より頗る重要な意見の開陳あり午前十一時散會した。

### 記

#### 出席の參與氏名

内閣統計局長	川島孝彦
企畫院部長	中島清二
内務省計畫局長	松村光磨
海軍省人事局長海軍少將	伊藤整一
農林省臨時農村對策部長	重政誠之
拓務省拓務局長	安井誠一郎
厚生省豫防局長	高野六郎
厚生省衛生局長	林信夫
厚生省勞働局長	藤原孝夫
厚生省體力局長	佐々木芳遠
厚生省社會局長	新居善太郎
厚生省職業部長	内藤寛一
厚生書記官	武島一義
從二位勳一等	關屋貞三郎
從四位勳三等	那須皓
正五位勳四等	古屋芳雄
從四位勳四等	永井亨
	井上雅二
	暉峻義等

昭和十五年三月二十八日人口問題研究所參與會議に於ける岡田所長挨拶

本日は昨年八月設置せられました人口問題研究所の機關と致しまして此の度參與の方々の御就任を見ましたにつきまして、本研究所の設置の趣旨を御話申上げ、今後の研究方針に就て御意見を承り度いと存じまして、御參集を煩はしました所、議會直後極めて御多用中にも拘らず打揃ひ御出席下され誠に有難く存じます。

人口は國家社會の基礎でありまして、諸般の政策は直接間接人口問題に關聯せざるはないと云ふも過言ではありません。従つて人口問題の内容は廣範且複雑であります。我國に於て人口問題が朝野の重要問題となつて以來年月は尙淺いのでありますが、その間に於てすらその問題の重點は幾變遷を示して居るのであります。我國に於ける最近人口問題の發展及本研究所設置の沿革を御話し申上げることとはこの問題の種々なる方面に觸れることになりまして、先づ問題を沿革的に御話し申上げ度いと存じます。

申上げる迄もなく人口は一國々力の基礎でありまして、その數及質の消長は直ちに國運の盛衰に關するものであります。従つて國家の發展の爲には優秀なる人口の數多き繁殖を計らなければならぬのであります。この點は何れの國、何れの時代に於ても變らざる人口政策の根本であります。然し乍ら多數の國民に對して食料その他の生活資料を確保すると云ふことは民政の根本義でありまして、我國に於ては内地の耕地及食糧の生産と云ふものは大體の限界があるのであります。政府の非常なる努力にも拘らず人口の増加に應じて内地の耕地及食糧を増加する譯には參らないのであります。其處で大正年代の後半より昭和の初めにかけて食糧と人口との關係が重要な問題となり、昭和二年七月政府は人口食糧問題調査會を設置してこの問題を審議したのであります。その調査會は種々有益なる資料及意見を提出したる外、人口問題の解決は一朝一夕になし得るものに非ざるを以て恒久的調査機關を設立すべきことを決議したのであります。この調査會は昭和五年廢されたのでありますが右決議が一の機縁となつて昭和八年財團法人人口問題研究會が設立されました。而してこの時は大正末年以後計畫された朝鮮及臺灣の産米増殖計畫が著々効果を奏して、外地よりの米の移入が増した爲に米の不足と云ふ事は無く、却而米價の低落に悩んだのであります。大正末年以來の不況が益々甚しく失業者が續出し、如何にして多數の年増加し行く國民に職業を與へるか云ふ事即ち人口過剩と云ふことが朝野の中心問題でありました。然るに昭和十二年支那事變の勃發と共に我國は東亞新秩序建設の大業に従事することゝなると、人口問題はその姿を一變して、如何にしてこの大業に堪ふべき多數の優秀なる人口を増加すべきかと云ふ問題となりました。昭和十二年十月開かれた第一回人口問題全國協議會は時局に伴ふ新たな認識の下に常設國立人口問題研究所を設置すべきことを建議し、右建議が一の動機となつて昨年八月茲に人口問題研究所が出来たのであります。顧みますれば昭和二年人口食糧問題調査會の出来た頃から人口問題の重點は幾變遷を見ました。昭和二年の頃は人口と食糧の問題が朝野の憂慮の對象となり、其の後人口と職業との問題が識者の重要視する所となり、人口過剩の聲が喧しかつたのであります。が、今や問題は三轉して、如何にして人口の増加を計るか云ふ人口問題本來の方面が強調せらるゝに至りました。斯くの如く人口問題の重點が變遷を示した事は、問題の内容が多面的な性質を有することを示すものであります。今日に於ても、食糧問題も職業問題も恒久的に解決せられたと言ふ譯ではなく、又昭和初年人口過剩論が盛んであつた時も一國々力の基礎が多數の人口にあると云ふことには變りはないのであります。

なつて昭和八年財團法人人口問題研究會が設立されました。而してこの時は大正末年以後計畫された朝鮮及臺灣の産米増殖計畫が著々効果を奏して、外地よりの米の移入が増した爲に米の不足と云ふ事は無く、却而米價の低落に悩んだのであります。大正末年以來の不況が益々甚しく失業者が續出し、如何にして多數の年増加し行く國民に職業を與へるか云ふ事即ち人口過剩と云ふことが朝野の中心問題でありました。然るに昭和十二年支那事變の勃發と共に我國は東亞新秩序建設の大業に従事することゝなると、人口問題はその姿を一變して、如何にしてこの大業に堪ふべき多數の優秀なる人口を増加すべきかと云ふ問題となりました。昭和十二年十月開かれた第一回人口問題全國協議會は時局に伴ふ新たな認識の下に常設國立人口問題研究所を設置すべきことを建議し、右建議が一の動機となつて昨年八月茲に人口問題研究所が出来たのであります。顧みますれば昭和二年人口食糧問題調査會の出来た頃から人口問題の重點は幾變遷を見ました。昭和二年の頃は人口と食糧の問題が朝野の憂慮の對象となり、其の後人口と職業との問題が識者の重要視する所となり、人口過剩の聲が喧しかつたのであります。が、今や問題は三轉して、如何にして人口の増加を計るか云ふ人口問題本來の方面が強調せらるゝに至りました。斯くの如く人口問題の重點が變遷を示した事は、問題の内容が多面的な性質を有することを示すものであります。今日に於ても、食糧問題も職業問題も恒久的に解決せられたと言ふ譯ではなく、又昭和初年人口過剩論が盛んであつた時も一國々力の基礎が多數の人口にあると云ふことには變りはないのであります。

して、常に人口の増加維持の必要あればこそ、食糧問題、職業問題と云ふものが眞に重要な問題となつて來るのであります。同時に人口問題は他の政策と異つて、短時日の中に解決の出來る問題ではないので、眞に國家百年の長計として實行しなければならぬのであります。

最初に申しました如く、多數の優良なる人口を増加すると云ふ事は國力の根本であり、常に人口政策の基調でなければならぬのであります。東亞新秩序の建設と云ふこの長期に互る複雑多難なる事業に乗り出したる我國は特にその痛切なる必要に驅られて居るのであります。

然るに輓近我國の世相を見まするに、我國の出生率は之を歐米に比すると遙に高いのであります。連年減退の趨勢にあります。而して人口の都市集中、工業化、産兒制限知識の普及、結婚年齢の遅延其の他歐米に於て出生率減少の原因として擧げられて居る所は凡て我國にも之を見るのであります。若し自然の推移に放任せば、我國も尙歐洲諸國の路を追ふものと思はれます。一方に於て我國死亡率も大體に於て減少の傾向にあります。之を歐米に比するときは尙甚だ高く、殊に結核死亡率の甚だ高く、而も、青少年期の結核死亡率の年々増加の趨勢にあることは誠に憂ふべき現象であります。更に戦時及事變に際しては人口の損耗に加ふるに出生率は減少し死亡率増加し、體質の悪化するのが各國の事例でありまして、我國も大體同様の傾向が見られるのであります。是等の問題につき総合的な調査研究を遂げ國策の樹立に貢獻致すことは正に本研究所の使命と考へて居る所であります。

この機会に一言人口問題研究所の組織に就て御話申上げますれば、本研究所は企畫部及調査部の二部に岐れ企畫部は庶務會計の外調査の統轄及外部との連絡を主管し、調査部は四班に分れ第一班は人口統計に關する事項、第二班は民族問題、第三班は人口と經濟に關する事項、第四班は人口衛生を夫々分擔致すことになつて居ます。固より實際に於ては混然一體となつて相協力して仕事を進めて居る事は申す迄もありません。

然し本研究所は僅少の研究官及研究官補を有するのみで、直接手足を有しないのでありますから、各官廳に於て作製せらるる統計資料を利用すると共に、調査資料の蒐集には各位の御援助、御協力を煩さなくては到底所期の目的を達することを得ないのであります。

參與は特に合議體でもなく、又決議機關でもないものであります。殊に問題のある時は會議を開きますが、會議を開かずとも必要に應じてその都度或は當所より御援助を御願致し、或は各位より御意見御指導を賜り度いと思ふのであります。何分宜しく御協力を願ひます。

本日は本研究所に於ける研究項目及現にやつて居る事に就て御報告申上げ、各位の隔意なき御意見を承り度いと存じます。

### 所得階級別婚姻、出生及死亡調査

昭和十五年二月十九日、豫ねて計畫中の所得階級別婚姻、出生及死亡調査要綱の決定を見、直ちに之を實施することとなつた。其の要綱を掲ぐれば左の如くである。

### 所得階級別婚姻、出生及死亡調査要綱

#### 一、調査の目的

出生増加及死亡減少方策に關する基本的研究資料作成の爲所得階級別の婚姻、出生及死亡を調査せむとす

#### 一、調査の客體

昭和十四年一箇年間調査地域に現住し戸數割を納むるもの及戸數割を免除せらるるも一戸を構ふる者及其の同居家族

#### 一、調査の事項

(一) 戸數割階級別による男女、年齢及配偶關係別人口(昭和十四年末現在)

(二) 戸數割階級別による婚姻年齢別男女初婚者

(昭和十四年中)

(三) 戸數割階級別による男女別出生兒及死産兒

(昭和十四年中)

(四) 戸數割階級別による男女、年齢及死因別死亡

(昭和十四年中)

#### 一、調査の方法

關係市吏員に委嘱し、戸數割原簿、戸籍簿、世帯簿、寄留簿、婚姻届、出生届、死亡届等により必要事項の調査集計を行ひ別掲結果表様式に記入せしむ

#### 一、調査の地域

青森市、盛岡市、秋田市、山形市、市川市、甲府市、沼津市、四日市市、宇部市、松江市、新居濱市、大牟田市、延岡市、外六市交渉中

#### 備考

調査上の注意事項

(イ) 戸數割階級の區分に就ては昭和十四年度に

依り先づ勤勞所得のみを有する者に對する戸數割納税額を求め之を標準とし勤勞所得者、財産所得者及事業所得者に付左の四級に分つ

一、最下級 勤勞所得のみ年額六百圓ある者に對する戸數割以下の戸數割(勤勞所得六百圓より少なく又は全く無きも財産あるにより之に相當する戸數割を納むるものを含む以下之に同じ)

納税者並に戸數割免稅者にして一戸を構ふる者

二、下級 前號の戸數割を超え勤勞所得年額一千二百圓ある者に對する戸數割以下の戸數割納税者

三、中級 前號の戸數割を超え勤勞所得年額三千圓ある者に對する戸數割以下の戸數割納税者

四、上級 前號の戸數割を超ゆる戸數割納税者

(ロ) 戸數割を課せられたる者の同居家族員は總て戸數割を課せられたる者と同一所得階級に屬するものとす

(ハ) 調査の事項(二)は當該結婚に依り新に調査の客體たる世帯の世帯員となりたる者に就ては之を調査せず

但し調査の客體たる世帯の世帯員が結婚に依り他の世帯員となりたる場合には調査を要す

以上